

FUSO 



# FUSO REPORT

第60期 中間報告書

2016年4月1日から2016年9月30日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



東証一部への市場変更を機に「強み」を活かし、さらなる成長を目指します。



代表取締役社長  
赤澤 良太

**1** 当上半期の業績についてお聞かせください。

**A** 当初計画より、円高に推移したために、売上高は前年より若干減少しましたが、輸入原材料安もあり、各利益は大幅増となりました。また、半導体市場が好調に推移しており、特に、配線幅の微細化に伴い、CMP(化学的機械的研磨)スラリー向けの超高純度コロイダルシリカの需要が堅調で、物量も二桁増となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は172億3千2百万円(前年同期比2.0%減、3億4千4百万円減)、営業利益は45億5千3百万円(同27.7%増、9億8千9百万円増)、経常利益は44億5千9百万円(同21.8%増、7億9千9百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、30億5千6百万円(同24.9%増、6億1千万円増)となりました。

**2** 「鹿島果実酸コンビナート」とはどのような構想ですか？

**A** 三井化学様から有機酸事業の事業譲渡を受けて、一昨年の10月より無水マレイン酸・フマル酸等の製品供給を受け、扶桑ブランドでの販売を開始しています。

既に当社承継予定の有機酸設備を除き、三井化学様の敷地内の工場設備の撤去は完了しており、来年11月を目前に、有機酸生産設備の譲受を受ける予定です。その後、敷地内に「リンゴ酸」生産設備の新設に取り掛かる計画をしております。「無水マレイン酸」は当社主力品「リンゴ酸」の原料となりますので、「無水マレイン酸」からの一貫生産が可能になり、需要拡大の見込めるアジア地域へ、最先端の設備による効率化を実現し、競争力を備えた製品供給が可能となります。

まず、手始めに「リンゴ酸」の製造から始めますが、徐々に製造製品群の拡大を図っていき、様々な果実酸を一貫生産する総合果実酸生産設備を完成させる予定です。

### 3 電子材料事業の市場環境と 今後の投資に関してお聞かせ頂けますか？

IoT (Internet of Things) 時代の幕開けがやってきました。新製品の開発競争は既に始まっており、その開発速度は今後一気に加速するものと思われます。これまで市場の牽引役であったスマートフォンは、年率成長では若干頭打ちではありますが、新たに車載自動運転・ドローン等の新市場の台頭は確実視されています。半導体が使用される箇所・量とも大きな拡大が見込まれており、益々私どもの超高純度コロイダルシリカを使用したCMPスラリーで半導体を研磨していただく機会が増えると思います。

半導体市場の進化は非常に目まぐるしく、早いので、要求される製品の品質は益々厳しくなってきました。当社としては、微細化とこれに伴う開発のスピードに乗り遅れないよう、先手、先手を打っていく必要があります。たとえば、スマートフォンにしても、数年先に上市されるシングルナノプロセスの半導体を製造するために必要な、超高純度コロイダルシリカの製品開発が求められています。現時点では、当社の超高純度コロイダルシリカはユーザー様が求める、安定生産、高品質化、製品効率化を実現していると考えておりますが、次世代に対応できる、生産・品質管理体制の実現のため、改良・更新のための投資と、今後の需要増に対応するための生産能力増強も順次進めてまいります。

### 4 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

株価も上場来高値を更新しております。当初連結業績予想に対し、業績も順調に進捗しており、今年度の利益計画を上方に修正しております。残り4か月、修正計画の完遂に向けて、全社一丸となって尽力してまいります。

また、株主優待制度を廃止し、平成29年3月期期末配当予想を3円増配の18円に上方修正することを既に公表させて頂いております。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識し、配当性向、株主利回り等を考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施する事で、株主の皆様に対する利益還元の充実を図ってまいります。

株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





# 事業概況

THE CHARACTERISTICS OF THE SEGMENTS



LIFE SCIENCE

L

ELECTRONIC MATERIALS & FUNCTIONAL CHEMICALS

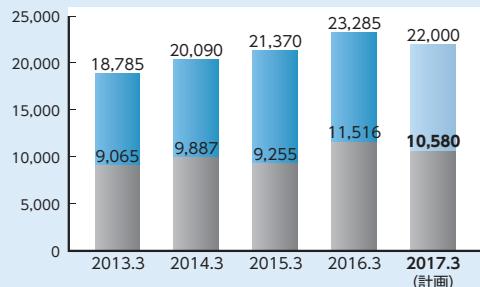
E



**ライフサイエンス事業**全体の業績は、外部顧客に対する売上高が105億8千万円(前年同期比8.1%減、9億3千6百万円減)、営業利益は19億1千1百万円(同16.1%増、2億6千4百万円増)となりました。

リンゴ酸・フマル酸等の果実酸類の販売は好調に推移しましたが、円高が海外子会社の円換算売上高および外貨建て売上高に大きな影響を与え、売上高は前年同期を下回りました。営業利益は、海外子会社の利益に対する円高の影響がありましたが、石油化学製品価格の下落、ならびに円高効果により、果実酸の原材料価格および商品輸入価格が下落したほか、コスト削減が利益率の向上に貢献したことにより、前年同期を上回りました。

ライフサイエンス事業



**電子材料および機能性化学品事業**全体の業績は、外部顧客に対する売上高が66億5千2百万円(前年同期比9.8%増、5億9千1百万円増)、営業利益は31億8千5百万円(同33.3%増、7億9千6百万円増)となりました。

円高により外貨建て売上高は大きな影響を受けましたが、半導体市場が引き続き堅調であり、半導体プロセスの微細化の進展に伴った当社製品「超高純度コロイダルシリカ」への需要も旺盛となっています。さらにナノパウダー等の半導体研磨分野以外向け製品の販売も堅調に推移したため、売上高は前年同期を上回りました。営業利益は、販売数量の増加や前倒し生産による原価低減により、前年同期を上回りました。

電子材料および機能性化学品事業



売上高の比率 (連結)

ライフサイエンス事業

61.4%  
105億8千万円

電子材料および機能性化学品事業  
38.6%  
66億5千2百万円

売上高 (単位:百万円)

通期 (青) 第2四半期 (緑)

## 特集 生活の中のリンゴ酸

扶桑化学工業の設立は1957年。医薬品向け中間製品の専門メーカーだった当社が1962年に、他社の工場を買収したのを契機に、創業者の赤澤庄三（現名誉会長）が生産に乗り出したのがリンゴ酸ビジネスの始まりです。当時は粉末ジュースが大人気で、それに酸味を付与する酸味料として販売されていました。

リンゴ酸はさわやかで爽快感のある酸味を持つのが特徴で、清涼飲料水向け酸味料としてはスポーツドリンク、炭酸飲料などの他、冷菓向け酸味料としてはシャーベット、アイスクリーム、加工食品向け酸味料としてはチューインガム、キャンディー類やジャム、ソース類、漬物など広範囲に用いられています\*。

また、食品用途以外では浴槽用洗剤、薬用発泡入浴剤、消臭

剤向けの他、金属表面処理、酸洗浄剤、染色剤、水処理剤、医薬品原料、半導体洗浄剤や肥料など、さまざまな分野で使用されています。

歴史ある製品ですが、まだまだ当社の屋台骨を支える主力製品で売り上げも伸び続けています。新しい機能や用途に使用もされており、髪にうるおいやツヤを与える、保湿効果を期待してシャンプーに利用されていたり、機能性衣料「身にまとう化粧品」として肌の乾燥予防や肌のpH調整に、弱酸性のリンゴ酸が配合されたり、近年、身近な家庭用品にも使用されています。



\*商品に表示する場合には、「クエン酸」や「リンゴ酸」のような物質名で記載する場合と、「酸味料」という一括名で記載される場合があります。



- 1 養殖中の海苔に使用すると、リンゴ酸が海苔に付着した雑菌をとり、アオサなどが付着せず、海水中の栄養分の吸収が良くなり、発育を促進します。
- 2 リンゴ酸とナトリウムを組み合わせでつくった「リンゴ酸ソルト」を、タラコや明太子などに使用すると、塩分は控えめで、食塩と同等の保存性を高める効果を発揮します。
- 3 リンゴ酸を配合した「ニューメンソルト」をそばやうどんのゆで湯に使用すると、ゆで溶けが防止でき、麺角のたった、つやつやした麺になります。
- 4 歯磨きに使用すると、着色汚れが付きにくくなります。歯にこびりついた頑固な着色を浮き上がらせて洗い流すことができ、ホワイトニング効果があります。
- 5 入浴剤では、重曹にリンゴ酸、フマル酸などを組み合わせることにより、浴湯中で炭酸ガスが発生し、それが皮膚に浸透し血行を促進します。





# 連結財務諸表(要旨)

FINANCIAL STATEMENTS

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2016年9月30日)	前連結会計 年度末 (2016年3月31日)	科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2016年9月30日)	前連結会計 年度末 (2016年3月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>36,113</b>	<b>34,221</b>	<b>流動負債</b>	<b>5,849</b>	<b>5,780</b>
現金及び預金	20,070	17,709	支払手形及び買掛金	2,297	2,060
受取手形及び売掛金	9,114	9,424	未払法人税等	1,339	1,380
商品及び製品	4,924	5,039	その他	2,212	2,339
仕掛品	139	173	<b>固定負債</b>	<b>2,391</b>	<b>2,407</b>
原材料及び貯蔵品	827	821	退職給付に係る負債	1,563	1,554
繰延税金資産	427	439	繰延税金負債	355	377
その他	579	614	資産除去債務	8	8
<b>固定資産</b>	<b>13,281</b>	<b>13,937</b>	その他	464	467
<b>有形固定資産</b>	<b>11,476</b>	<b>12,084</b>	<b>負債合計</b>	<b>8,241</b>	<b>8,188</b>
建物及び構築物(純額)	5,600	5,934	<b>純資産の部</b>		
機械装置及び運搬具(純額)	2,286	2,668	<b>株主資本</b>	<b>40,363</b>	<b>38,194</b>
土地	3,056	3,067	資本金	4,334	4,334
建設仮勘定	168	2	資本剰余金	4,820	4,820
その他(純額)	363	411	利益剰余金	31,212	29,043
<b>無形固定資産</b>	<b>258</b>	<b>292</b>	自己株式	△3	△3
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,546</b>	<b>1,560</b>	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>785</b>	<b>1,770</b>
投資有価証券	692	710	<b>非支配株主持分</b>	<b>5</b>	<b>5</b>
長期前払費用	37	20	<b>純資産合計</b>	<b>41,154</b>	<b>39,970</b>
繰延税金資産	610	608	<b>負債純資産合計</b>	<b>49,395</b>	<b>48,158</b>
その他	206	220			
<b>資産合計</b>	<b>49,395</b>	<b>48,158</b>			

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2016年4月 1日から 2016年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2015年4月 1日から 2015年9月30日まで)
売上高	17,232	17,577
売上原価	9,602	10,745
売上総利益	7,629	6,832
販売費及び一般管理費	3,076	3,267
営業利益	4,553	3,564
営業外収益	38	101
営業外費用	132	5
経常利益	4,459	3,660
特別利益	0	104
特別損失	2	1
税金等調整前四半期純利益	4,456	3,762
法人税等	1,400	1,316
四半期純利益	3,056	2,446
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,056	2,446

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2016年4月 1日から 2016年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2015年4月 1日から 2015年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,042	3,603
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,025	△300
財務活動によるキャッシュ・フロー	△890	△1,108
現金及び現金同等物に係る換算差額	△460	△46
現金及び現金同等物の増減額	8,716	2,148
現金及び現金同等物の期首残高	11,214	5,521
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,930	7,670

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## Point 1 連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ12億3千6百万円増加し、493億9千5百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加によるものです。

負債については、前連結会計年度末に比べ5千2百万円増加し、82億4千1百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加によるものです。

純資産については、前連結会計年度末に比べ11億8千3百万円増加し、411億5千4百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

## Point 2 連結損益計算書

当社主力品である、リンゴ酸類並びに超高純度コロイダルシリカの販売は堅調に推移したものの、円高による海外子会社および輸出売上高の円換算の影響を受け、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期を下回りました。

一方、営業利益は、円高による輸入仕入価格・原材料費の下落、コスト削減に加え、生産数量増に伴う原価低減もあり、営業利益は前連結会計年度末に比べ9億8千9百万円増加し、半期としては過去最高の45億5千3百万円となりました。

また、営業外費用については、円高に伴い為替差損が1億2千9百万円発生しています。

## Point 3 連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を法人税等の支払い、配当金の支払いに充てた結果、前連結会計年度末に比べ87億1千6百万円増加し、199億3千万円となりました。

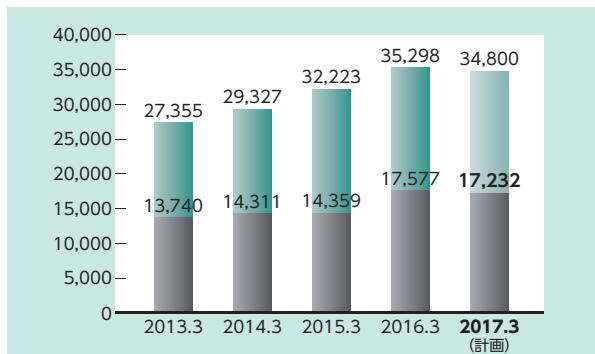


# 業績ハイライト(連結)

FINANCIAL HIGHLIGHT

■売上高 (単位：百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



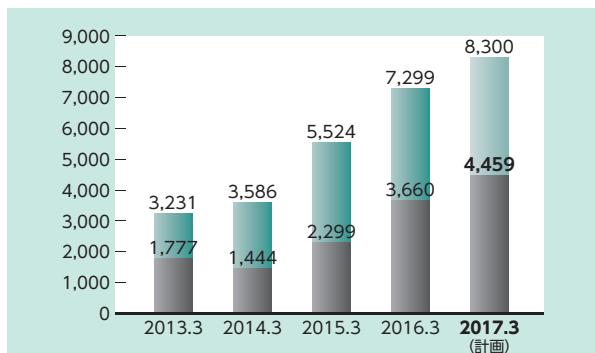
■営業利益 (単位：百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



■経常利益 (単位：百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



■親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



## 第2四半期と通期における業績の推移

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期 (計画)
売上高(百万円)	13,740	27,355	14,311	29,327	14,359	32,223	17,577	35,298	17,232	34,800
営業利益(百万円)	1,863	3,223	1,429	3,539	2,270	5,426	3,564	7,279	4,553	8,400
経常利益(百万円)	1,777	3,231	1,444	3,586	2,299	5,524	3,660	7,299	4,459	8,300
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,056	1,903	828	2,258	1,441	3,452	2,446	4,716	3,056	5,700
償却前営業利益(百万円)	2,662	4,860	2,197	5,384	3,221	7,573	4,464	9,077	5,202	9,806
1株当たり当期純利益(円)*	33.52	60.42	26.29	71.68	45.75	109.57	77.64	143.76	86.08	160.54

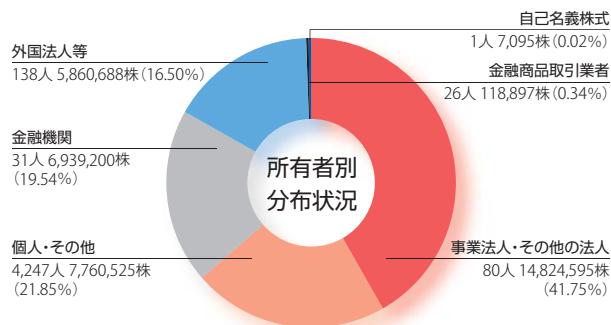
## 株式の状況

(2016年9月30日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000 株
- 発行済株式の総数：35,511,000 株  
(自己株式が7,095株含まれています。)
- 株主数：4,523 名

## 株主の分布

(2016年9月30日現在)



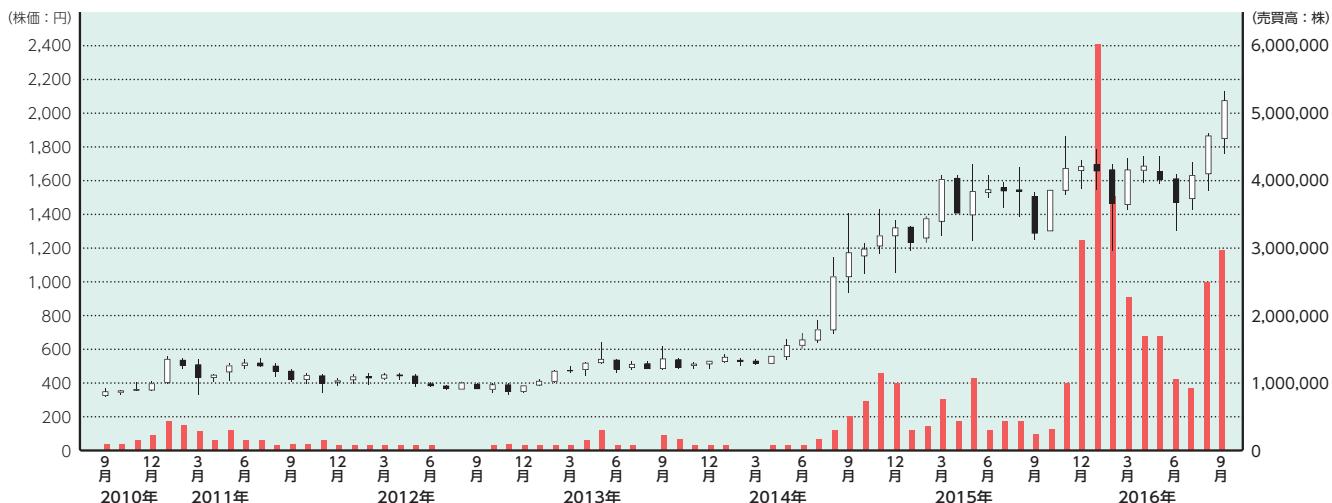
## 大株主

(2016年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.76%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.37%
赤澤 庄三	3,085,965	8.69%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,712,500	4.82%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,500,625	4.23%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,398,100	3.94%
有限会社帝産	1,375,000	3.87%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	1,293,400	3.64%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.34%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	870,100	2.45%

(注) 持ち株比率は、自己株式数を控除して計算しております。

## 株価の推移\*



\*2014年10月1日付の株式分割(1:5)に伴い調整を行っています。



# 会社概要

CORPORATE PROFILE

## 会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号  
(日生伏見町ビル新館5階)  
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号  
京都事業所  
京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地  
京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地  
福岡営業所 福岡県柳川市三橋町下百町42番地1  
(荻島第5ビル3階)  
東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号  
かながわサイエンスパークR&D棟 A1009  
大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10  
十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社 (国内) 株式会社扶桑コーポレーション
- 主要子会社 (海外) 青島扶桑精製加工有限公司(中国)  
扶桑化学(青島)有限公司(中国)  
PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)  
FUSO (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

## 役員

(2016年9月30日現在)

### ■名誉会長および取締役

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| ファウンダー 名誉会長           | 赤澤庄三  |
| 代表取締役社長               | 赤澤良太  |
| 常務取締役<br>(管理本部長)      | 榎本修三  |
| 取締役<br>(電子材料事業部長)     | 政氏晴生  |
| 取締役<br>(ライフサイエンス事業部長) | 谷村隆史  |
| 取締役                   | 藤岡実佐子 |
| 取締役                   | 多田智美  |
| 取締役                   | 江黒早耶香 |

### ■監査役

- |       |      |
|-------|------|
| 常勤監査役 | 武川隆彦 |
| 常勤監査役 | 赤澤敬敏 |
| 常勤監査役 | 中永吉信 |
| 監査役   | 木下善樹 |

### ■執行役員

- |      |  |
|------|--|
| 執行役員 | 中司哲浩<br>(ライフサイエンス事業部 営業開発部 福岡営業所長<br>兼 株式会社扶桑コーポレーション 代表取締役社長) |
| 執行役員 | 榎本源樹<br>(ライフサイエンス事業部 営業開発部長)                                   |

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日
  - 定時株主総会 毎年3月31日
  - 期末配当金 毎年3月31日
  - 中間配当金 毎年9月30日
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

■株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

■株主名簿管理人  
事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

#### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

#### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

#### ■公告の方法

電子公告とする<<http://www.fusokk.co.jp/>>

#### ■上場金融商品取引所

東京証券取引所市場第一部

#### 【利益配分に関する基本方針】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。



**FUSO**  扶桑化学工業株式会社

<http://www.fusokk.co.jp/>

**VOC**  
**FREE** T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの  
インキを使用して印刷しました。